

目次

- ・ インタビュー.....「カリキュラムに問題はありますか？」 (1)
- ・ センターニュース... 「リンクカリキュラム意見交換会」他 (2)
- ・ 授業のティップス... 「オフィスアワーに学生がこない」 (4)
- ・ センター運営委員会の動き..... (5)
- ・ センター日誌..... (6)
- ・ 授業に役立つ工具箱 ...「説明上手になる技術」 (7)
- ・ センター掲示板..... (8)

インタビュー

カリキュラムに問題はありますか？

愛媛大学法文学部総合政策学科昼間主

4回生 森川 健太

森川さんは、ESMOで活躍されていますが、これまでどのような活動をしてきましたか？

学校行事の企画運営に携わりました。例えば、高校生の体験入学や新入生の歓迎週間で、学生向けの相談活動を行いました。

活動の動機は？

実際は友人に誘われたのですが、高校時代から生徒会長をやっていたので、人のために何かしたいという気持ちは強かったですね。

活動の印象は？

一言で言うと、勉強になることが多かったです。学校という組織の事情を見ながら運営に携われたので、学内にいながらインターンシップをしている感じでした。将来に役立つなと思いました。

共通教育、学部教育を通して、良かった授業、悪かった授業を教えてください。

4回生になって思うのは、共通教育の「未習外国語」が良かったなと思います。英語と違って、基礎から勉強するという意味で、将来マスターできるかもしれないという期待がありました。

学部の授業では、法文学部では講義形式の授業が



多い中で、少人数で調査をしながら進む「フィールドワーク」が良かったです。別府にある身体障害者の人たちが働き、暮らす「太陽の家」という場所に行きました。同じ目的を持った人たちが集まって学ぶ機会があって、親密な関係を作れたのが良かったと思います。なかなか大学では人間関係を作りにくいので。しかも1年かかりで取り組みましたし。「フィールドワーク」の授業を取った友達とは今でもつきあいがあります。

共通教育、学部教育を通して、カリキュラムの改善点などがあれば教えてください。

振り返ると、共通教育では、友達や先輩から「単位が取りやすい」と言われたり、友達が取らなかつた科目は、学ぶ動機が曖昧だったという反省をしています。それから、僕たちの次の年から「コミュニケーション英語」が導入されましたが、それは羨ましいなあと思いました。

法律の授業が学びたいと思い大学に入りましたが、1年目の専門科目が少なすぎたと思います。入門科目と並行して、もう少し深い専門科目を学ぶことで、相乗効果が生まれると思います。入門科目だけを先にやっても、全体をぼんやりとしかつかめませんでした。早いうちから、専門科目を学ぶ機会を作ってほしいです。

それから、「基礎セミナー」の内容が、他のクラスとあまりに違いすぎました。やる内容が異なるのであれば、選択させてほしかったです。選択できないのであれば、だいたい同じ内容にしてほしいです。

先生方の授業の仕方への不満はないことにはないですが、本当に取りたい授業であれば、さほど気になりません。むしろカリキュラムの組み立て方に問題があるのではないのでしょうか？

カリキュラムがあまりにも学生を遊ばせすぎるも

のになってしまっているのではないのでしょうか。

施設、教育サービス等についての要望・提案は何かありますか？

学生の立場で言うのも何ですが、最近、ポスターでFD、SDという言葉を見ますが、本当に成果があるのか疑問を感じます。例えば、事務の窓口業務などは、一対一で接する機会ですが、冷たい感じがします。それから学部の縦割りの弊害を感じます。愛媛大学として統一して、サービス向上に取り組んでほしいです。

(聞き手 佐藤浩章 大学教育総合センター)

もりかわ・けんた

愛媛県立丹原高等学校卒業。ESMO（愛媛大学学生メンターズ）メンバー。

※ESMOは、大学教育総合センター広報小委員会を持つ学生スタッフ組織です。共通教育のモニター、キャンパス清掃、高校生体験入学スタッフ、新入生歓迎スタッフとして活動しています。

▼ 大学改革に関する教職員・学生の皆さんの意見を掲載します。こちらがインタビューに伺うこともありますが、投稿も受け付けております。随時連絡をお待ちしております。巻末の◎印の編集委員までお願いします。

センターニュース

さらなる教育改革を求めて リンク・カリキュラム（仮称）の 意見交換会が各学部で開かれました

大学教育総合センター教育改革推進委員会においてかねて検討中の共通教育新カリキュラム（仮称「リンク・カリキュラム」）について、各学部において意見交換会が実施されました。センター側の趣旨説明に対し、どの学部においても活発な質問や意見が出されました。意見内容は多岐にわたることからさまざまな問題点等が明らかにされると共に、それぞれの学部の立場が率直に表明されることで、今後の共通教育の改革方向が一層はっきりしてきたことが、成果としてあげられます。教育改革推進委員会は現在、一連の意見交換の報告書を取りまとめであり、

近々各学部に送付する予定です。なお、意見交換会の日程は下記の通りです。

2003年 4月 24日	法文学部	5月 22日	理学部
6月 5日	教育学部	6月 12日	工学部
6月 23日	医学部	7月 3日	農学部

主題別科目の新たなかたちを探る 新カリキュラムの導入に先立ち、パイロット授業を企画しています

「リンク・カリキュラム」をめぐる意見交換会を通して見えてきた問題点等について、実地に調査・研究することを目的として、共通教育企画・実施部（企画委員会）では、リンク・カリキュラムが提案している授業形式を、これまでの主題別科目の枠組の中で試行的に一部実施することとしました。

このことについて6月の大学教育審議会の承認を得て、全学に担当教員を募集しました(本募集については、大学教育総合センターのホームページの共通教育企画・実施部のページに掲載されています)。今回募集したのは、愛媛大学の理念(地域・環境・生命)をテーマとする講義科目と、新形態の少人数授業科目(主題別セミナー及びプロジェクト学習)の担当者です。8月4日(月)の〆切時点で、合わせて18件の応募がありました。応募して下さった先生方のご協力を感謝いたします。

なお共通教育企画委員会では、これらの応募を中心として、平成16年度に実施するパイロット授業として、具体的な担当教員・講義内容等について検討中です。

第4回愛媛大学ワークショップが実施されました



7月19日(土)・20日(日)、国立大洲青年の家において大学教育総合センター(以下、センター)主催で、第4回愛媛大学教育ワークショップ(以下FDWS)及び第1回学務部教務課SDワークショップ(以下SDWS)が実施され、西頭センター長をはじめ本学教職員29名が参加しました。

このFDWSは、授業をする際に必要な基本的な知識とスキルを提供することを目的とし、授業計画の立て方やシラバスの作成方法をテーマとした講義やグループワークが行われました。

教育学部の平松講師による「教えること、育てること、そして、愛すること」と題する授業実践報告の後、実行委員による「目標設定と授業計画・シラバスの作成」、「様々な授業方法」、「よりよい成績評価の仕方」などの講義がありました。参加者は各グループ(4グループ)に分かれ、講義を参考に「愛媛大学の学生の考える良い授業と悪い授業」の分析、目標設定、授業計画、シラバス作成、評価計画、指導案作りを行いました。2日目には、各グループが「恐竜学」、「恋愛学入門」、「多元的文化論」、「人間学への誘い」をテーマにしたミニ授業を行いました。討議・検討では、活発な意見が飛び交い、「今後の授業に活かそうだ。」、「とても参考になった。」などの感想がありました。

閉会式では、各グループからグループ作業のまとめ(学んだことは何か?、どう実践に活かすか?)が発表されました。最後に西頭センター長から、参加者に修了証書が手渡されました。

一方、SDWSは、部分的にFDWSと合流しつつ実施されました。教務課においては、SD(Staff Development)自己評価を平成13年度から実施しており一定の成果を上げてきたところですが、今年度における新たな「SD評価項目」を策定するべく、グループワークにて意見を交わしました。

平成16年度共通教育授業計画の立案作業が始まりました

共通教育企画・実施部実施委員会が9月10日(水)に開催され、企画・実施部長より、平成16年度共通教育授業計画の立案についての依頼がなされました。例年くりかえされる年中行事ですが、現行の共通教育カリキュラム(ルネサンスプラン)が4年目に入るということで、各部会別にこれまでの授業計画とその実施に伴う基礎的なデータが参考資料として配付されました。いわゆるPlan-Do-Seeのサイクルがようやく軌道に乗ることで、今後の授業改善が期待されます。11月までの長丁場、部会委員の先生方におきましては本当にご苦労様ですが、よろしくお願いいたします。

「オフィスアワーに学生が来ないのですが」

Q シラバスにオフィスアワーをわざわざ入れているにもかかわらず、学生が質問に来ることはありません。このような時間を設定する意味はあるのでしょうか？



A. 「オフィスアワーの意味を繰り返し伝える」

今年度から、シラバスにオフィスアワーを記載するようになりましたが、皆さんはオフィスアワーをどのように活用していますか？設定しても学生が来ないという場合も多いようです。効果的に活用するにはどうしたらよいのでしょうか。

目的を繰り返し伝える。 オフィスアワー制度は、日本の大学に導入されて日が浅いこともあり、教員、学生の間でも認知度が低いのが実態です。オフィスアワーとは、教員が特定の時間を設けて、学生の質問や相談に応じる面接時間のことです。授業や課題についての質問を受けたりできます。原則として、事前の確認なしで訪問ができることになっています。学生から見れば、いつ訪問しても不在であったり、訪問して不愉快な顔をされるといったことがなくなり効率的です。また教員からしても、ひっきりなしに学生が訪問してくることを避けることができ、個人指導をすることで学生の学習進度を調整することができます。こうした目的については、最初の日だけではなく、学期中にも数回説明しましょう。

研究室のドアに掲示する。 シラバスには時間帯のみを記入している場合が多いのですが、場所（○○学部○号館○室）も伝えます。わかりにくい場合は地図を黒板に書いたりしましょう。また研究室のドアにも時間帯を掲示してみましょう。

またオフィスアワーを「授業に関する質問のための時間」としてだけではなく、様々に活用すること

で、学生の学習効果を高めるアイデアもあります。

課題の一つとする。 学生に短い口頭による発表をさせたり、論文の概要をまとめて発表させるなどして、オフィスアワーを活用することができます。学生とのコミュニケーションの場ともなり、きめ細かな学習指導が可能となります。

成績不良の学生への指導時間とする。 学期途中の課題を学生に返却する際に、「このことに関して、私に会いに来てください」とコメントをしておきます。調査によればこうした書き込みに反応する学生の比率は約 75%です。

また一度訪問した学生が、再度訪問しやすくなるアイデアもあります。

学生に真剣に対応する。 学生は、教員の時間を無駄にすることを気にしています。何度も時計を見たり、学生と話しながら他の作業をしたりすることは避けましょう。オフィスアワーにかかってくる電話は取らないという教員もいます。

気持ちをほぐす。 研究室に入ること非常に緊張している学生もいます。授業の質問に答えるだけではなく、授業の感想や学生の出身地などを聞きます。オフィスアワーに教員に質問や意見を求める学生は、授業の課題を指摘してくれているわけですから、来てくれたことに対し感謝を述べます。

目的を誤解した学生には注意する。 学生の中には、欠席した授業を繰り返してもらった時間だと誤解している者もいます。そういう目的でオフィスアワーを設置しているわけではないことをその学生には説明する必要があります。

参考文献：『授業の道具箱』pp. 447-452（バーバラ・グロス・デイビス 東海大学出版会 2002年 2800円）

▼ 大学教員が授業をする上で役立つコツ（ティップス）を伝えます。取り上げて欲しいテーマがある方は、巻末の編集委員までご連絡ください。

8月

- 1日 第1回安全小委員会
 // (FD)e-learningの現状と動向
 5日 第4回センター自己点検・評価委員会
 6日 第7回共通教育企画委員会
 // 第3回共通教育実施委員会
 7日 愛媛大学体験入学
 8日 //
- 11日 愛媛大学FD/SD発表会
 12日 リンクカリキュラム勉強会
 19日 第8回共通教育企画委員会
 28日 第9回共通教育企画委員会

9月

- 5日 第8回センター運営委員会
 8日 第10回共通教育企画委員会
 10日 第4回共通教育実施委員会
 // 第6回教育改革推進委員会
 12日 第11部会
 17日 第7回教育改革推進委員会
 // 第5回センター自己点検・評価委員会
 18日 第11回共通教育企画委員会
 24日 第9回センター運営委員会
 29日 法人化説明会

シリーズ 授業に役立つ道具箱(5)

説明上手になる技術

藤沢晃治『「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール』

(講談社ブルー・ボックス 800円)



今回紹介するのは、大手メーカーのソフトウェア・エンジニアによる分かりやすいプレゼンテーションの技法について書かれたものです。学生や同僚から「話が分かりにくい」と指摘された経験をお持ちの方には是非お勧めの一冊です。

著者は、具体的な説明術に入る前に、「分かる」とはどういうことかについて、脳の働きから解き明かしていきます。結論から言えば、「脳の短期記憶領域」(脳内関所)を通過しやすく、「長期記憶が保存される領域」(脳内整理棚)に格納しやすい説

明こそが、分かりやすい説明とされます。この原理に沿って、以下では15のプレゼンテーションのコツが提示されていきます。「聞き手とのタイムラグを知れ」「要点を先に言え」「間を置きながら、しみいるように話せ」など、それらの記述は、具体的です。

彼のアドバイスを受け、プレゼンテーションが短時間で上達した事例の紹介もされています。

こうしたノウハウ本に特有なことですが記述内容を読んだからといって、すぐに説明上手になれないことは当たり前です。ただし大学教員は、提示された説明術を試す機会が豊富にあるわけですから、本当かどうか試してみたいはいかがでしょう。

このようにさんざん「分かりやすい説明」について書いた後で、著者は「分かりやすい説明」が良いことかどうかはわからないとも述べています。「過剰に分かりやすく、親切過ぎる授業は問題」との指摘にも理解を示している点で、著者のバランスの良さも感じます。同著者による、分かりやすい文章表現について書かれた『「分かりやすい表現」の技術』も合わせてお勧めです。

▼ 大学教員が授業をする上で役立つ書籍、WEB情報を紹介します。取り上げて欲しいテーマがある方は、巻末の編集委員までご連絡下さい。

2003 年後期火曜ナイトサロンスケジュール

第 13 回

10 月 14 日 (6 時～8 時) 共通教育大講義室
「学生時代に観てほしい映画 10 本勝負! パート II」

第 14 回

10 月 21 日 (6 時～8 時) 生協食堂 2 階
「しゃべくりナイト: 男と女 (恋愛・結婚)」

第 15 回

10 月 28 日 (6 時～8 時) 共通教育大講義室
「海外旅行と留学のすすめ」

第 16 回

11 月 11 日 (6 時～8 時) 共通教育大講義室
「環境ホルモンの生態リスクを考える」

第 17 回

11 月 18 日 (5 時～7 時) 生協食堂 2 階
「しゃべくりナイト: 高校生と語る進路・学生生活」

第 18 回

11 月 25 日 (6 時～8 時) 共通教育大講義室
「知っておきたい AIDS の基礎知識」

第 19 回

12 月 2 日 (6 時～8 時) 共通教育大講義室
「わかる」ことの難しさ～臨床心理学の視点～

第 20 回

12 月 9 日 (6 時～8 時) 生協食堂 2 階
「しゃべくりナイト: テーマ未定」

第 21 回

12 月 16 日 (6 時～8 時) 共通教育大講義室
「クリスマスコンサート」

第 22 回

2004 年 1 月 13 日 (6 時～8 時) 生協食堂 2 階
「しゃべくりナイト: テーマ未定」

第 23 回

1 月 20 日 (6 時～8 時) 共通教育大講義室
「ピース・セッション in AIDAI」

※予告なしに内容等を変更する場合があります。ご了承ください。

愛媛大学学務部 (第一学生サービスセンター) 前掲示板等で最新情報をご確認下さい。



■■■ IEC リポート No8 ■■■

愛媛大学大学教育総合センター広報誌

発行日: 2003 年 10 月 1 日

発行元: 愛媛大学大学教育総合センター

〒790-8577 松山市文京町 3 番

TEL 089-927-8904 (代表) FAX 089-927-8915

<http://www.iec.ehime-u.ac.jp/iecweb/index.html>

編集者: 愛媛大学大学教育総合センター広報小委員会

中村慶子 (医学部)

折本素・松久勝利・◎佐藤浩章 (大学教育総合センター)

内容に関する意見・要望・お問い合わせは、◎印の委員まで

お願いします。sato@iec.ehime-u.ac.jp 内線 8346